

教育に関する事務の点検・評価報告書

(平成28年度実施事業分)

仙南地域広域行政事務組合教育委員会

基 本 目 標

1 視聴覚教材センター視聴覚教育計画

圏域住民一人ひとりが、心豊かに生きがいを感じ、絆づくりと互助・共助による活力があるコミュニティ形成を目指し、生涯を通じて自立・協働・創造に向けた学習活動を展開する中で、視聴覚教材センターでは、各世代が様々な学習ニーズに応じて利活用できる視聴覚教材・機材を整備していく。さらに、地域に根ざしたテーマに基づく視聴覚教材制作を進めて、郷土愛、創造力豊かな人材育成を図ることで、圏域住民一人ひとりの生涯学習活動の更なる充実をめざす。

2 仙南広域圏の振興発展に資する事業計画

本事業は、子どもたちが興味・関心を持つことのできる事柄を通じて、ことさらに自治体の枠を超えて、圏域の将来の文化活動を担う人材育成することを目標とする。また、次代を担う子どもたちと地域の文化を『はぐくむ』ことをテーマとした事業を実施する。

3 仙南芸術文化センター（えずこホール）事業計画

仙南芸術文化センター（えずこホール）運営の基本コンセプトは、住民参加型文化創造施設。社会包摂の考え方を基本に、圏域住民の皆さんがホールを拠点にいきいきとアート活動を展開し、手作りで舞台を制作。また、地域内の各機関と連携しながらアウトリーチ活動を展開することにより、人とアートによる地域活性化の循環を促進し、仙南圏域をいきいきさせていくことを目指す。鑑賞事業については、各分野から質の高いものを招聘し、優れた舞台表現にふれていただくと同時に、ワークショップ等、住民の皆さんが気軽に参加体験できるプログラムを併せて開催する。

平成 28 年度は、例年同様ホールを拠点に開催する創造発信事業と、地域で開催するアウトリーチ事業を充実した企画内容で展開。併せてさまざまな分野の公演を幅広いラインアップで開催、えずこホールが世界の窓となり広くアートを参加体験していただく機会を提供する。また、開館 20 周年を記念して、圏域内の各機関、住民の皆さんと協働し、祝祭の創造事業として「えずこせいじん博覧祭」を実施する。

平成 28 年度のえずこホールは、創造的な人と地域づくりを促進する各種事業を幅広く継続的に推進すると同時に、開館 20 周年事業を展開。圏域内のさまざまな機関、人と連携、協働しながら、新しい時代の新しいアートによる地域創造事業を展開していく。

I 事務の点検・評価について

1. 点検評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自ら点検評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することとされています。また、点検評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験者を有する者の知見の活用を図ることとなっています。

このため、教育委員会では、教育行政の効果的な推進を図るため、「教育に関する事務の点検・評価」を実施し、報告書にまとめました。

2. 点検評価の対象

平成28年度に教育委員会が定める「基本目標」に掲げた事務事業を対象としました。

3. 点検評価の方法

点検評価は、事務事業の必要性、効率性、有効性、公平性の観点から自己評価を行いました。また、客観性を確保するため、教育行政点検評価員会議を開催し、教育行政点検評価員として委嘱した外部の学識経験者（委嘱先については次頁参照）より意見をいただきました。

4. 結果の取り扱い

この点検評価の結果については、課題や問題の解決を行うと同時に事務事業の見直しについて検討することとなります。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅱ 教育行政点検評価員会議について

1. 開催日時・場所

日 時：平成29年8月28日（月）10時00分～12時00分

場 所：仙南地域広域行政事務組合仙南芸術文化センター会議室

2. 会議次第

1. 開会
2. 委嘱状の交付
3. あいさつ（当組合教育次長より）
4. 教育に関する事務の点検・評価について（平成28年度実施事業分）
5. 閉会

3. 教育行政点検評価員の略歴

○鈴木 悦郎 氏

性 別	男	年 齢	69歳	在住市町	丸森町
加盟団体等	丸森町文化財友の会、大内文化協会				
主要経歴	丸森町教育委員会社会教育主事。				
	丸森町青年団体連絡協議会長、大河原地区社会教育主事研究協議				
	会長、仙南青年団体連絡協議会長、国立花山少年自然の家運営委員、				
	宮城県民俗芸能詳細調査員、宮城県婦人教育・婦人団体調査員な				
	ども務めてきている。				

○大脇 賢次 氏

性 別	男	年 齢	61歳	在住市町	柴田町
加盟団体等					
主要経歴	愛知県豊山町立豊山中学校講師 他4校の講師				
	宮城県柴田郡村田町立村田第一中学校教諭 他7校歴任				
	全国自作視聴覚教材コンクール入選（4回）				
	文部省奨励研究（平成4年・一年間）				
	宮城県視聴覚教育功労者表彰				

Ⅱ 点検・評価の結果

1. 視聴覚教材・機材の整備及び貸出事業

事業目的	視聴覚教材・機材を適切に整備し、社会教育及び学校教育における学習活動場面での効果的な利用促進を図る。
事業名	① 視聴覚教材・機材の貸出 ② 学校教育・社会教育専門部会

成 果	課 題																						
① 視聴覚教材・機材の貸出 視聴覚教材については、すべての教材において、利用回数・視聴者数が減となっている。 視聴覚機材についても、ほとんどの機材において、利用回数が減となっている。なお、液晶プロジェクターの利用回数は全体の 47.5%を占めている。 ○教材利用状況 <table><tr><th>教材種別</th><th>利用回数</th><th>視聴者数</th></tr><tr><td>D V D</td><td>740 回(731 回)</td><td>19,242 名(21,421 名)</td></tr><tr><td>V H S</td><td>71 回(121 回)</td><td>933 名(2,560 名)</td></tr><tr><td>16 ミリ</td><td>62 回(89 回)</td><td>2,675 名(4,425 名)</td></tr><tr><td>その他</td><td>368 回(278 回)</td><td>4,259 名(4,996 名)</td></tr><tr><td>合 計</td><td>1,241 回(1,219 回)</td><td>27,109 名(33,402 名)</td></tr></table> ※その他の教材は、紙しばい、パネルシアター、エプロンシアターである。 ○機材利用状況 <table><tr><th>利用回数</th><th>うちプロジェクター利用回数</th></tr><tr><td>497 回(479 回)</td><td>236 回(252 回)</td></tr></table>	教材種別	利用回数	視聴者数	D V D	740 回(731 回)	19,242 名(21,421 名)	V H S	71 回(121 回)	933 名(2,560 名)	16 ミリ	62 回(89 回)	2,675 名(4,425 名)	その他	368 回(278 回)	4,259 名(4,996 名)	合 計	1,241 回(1,219 回)	27,109 名(33,402 名)	利用回数	うちプロジェクター利用回数	497 回(479 回)	236 回(252 回)	V H S教材及び 16 ミリフィルム教材の利用回数、視聴者数が大きく減少している。その一方で、紙しばい、パネルシアター、エプロンシアター等の利用が増加している。利用者に求められている教材の種類が変化していると考えられるため、求められる教材を整備していき、利用の増加を図りたい。
教材種別	利用回数	視聴者数																					
D V D	740 回(731 回)	19,242 名(21,421 名)																					
V H S	71 回(121 回)	933 名(2,560 名)																					
16 ミリ	62 回(89 回)	2,675 名(4,425 名)																					
その他	368 回(278 回)	4,259 名(4,996 名)																					
合 計	1,241 回(1,219 回)	27,109 名(33,402 名)																					
利用回数	うちプロジェクター利用回数																						
497 回(479 回)	236 回(252 回)																						
② 学校教育・社会教育専門部会 視聴覚教材選定を行うにあたり、以下の日程で各教育専門部会を開催した。 ・学校教育・社会教育専門部会（36 名） 2 月 23 日（木） ○平成 29 年度購入予定教材 <table><tr><th>社会</th><th>理科</th><th>その他</th><th>A 領域</th><th>B 領域</th></tr><tr><td>5 巻 (6 巻)</td><td>3 巻 (3 巻)</td><td>5 巻 (3 巻)</td><td>4 巻 (22 巻)</td><td>2 巻 (4 巻)</td></tr></table> ※A 領域は幼児・少年・青年向け、B 領域は成人・婦人・高齢者向け。	社会	理科	その他	A 領域	B 領域	5 巻 (6 巻)	3 巻 (3 巻)	5 巻 (3 巻)	4 巻 (22 巻)	2 巻 (4 巻)	平成 28 年度より年度当初から視聴覚教材を新しく整備できるようにしたところ、平成 28 年度に購入した視聴覚教材の利用率は 39 巻中 28 巻に増え、前年度対比で 42%向上した。 今後も新規購入教材の利用率を増加させるための手立てを検討していきたい。												
社会	理科	その他	A 領域	B 領域																			
5 巻 (6 巻)	3 巻 (3 巻)	5 巻 (3 巻)	4 巻 (22 巻)	2 巻 (4 巻)																			

※（ ）内の数字は、前年度実績

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
○小中学校では新学習指導要領の改訂により、求める教材が変わってきている。特に、小学校では英語と道徳が教科化したことにより、悩んでいる先生方が多いと思われる。視聴覚教材センターでもそれに対応した教材を整備する必要がある。	○専門部会等で現場の先生方から要望の聞き取りをし、より現在の教育現場で求められる教材を整備していきたい。
○英語の教材等は、現在インターネットでも入手できる状況であるため、そこでは入手困難なものを選定してもらいたい。	○教材を選定する際は、インターネットでも簡単に入手できるような内容かどうかも含め、検討していきたい。

2. 各種講座及び学習機会提供事業

事業目的	新しい知識や技術の習得を目指し、研修内容の充実を図るとともに、学習ニーズの拡大に対応した学習活動を支援する。
事業名	① シニアにやさしい かんたん！ビデオ講座（定員各8名） ② 出前講座 ③ あずなびあまつり（視聴覚教材センターフェスティバル）

成 果	課 題												
① シニアにやさしい かんたん！ビデオ講座 ※講師はセンター職員が担当 仙南圏域の 50 歳以上の方を対象に実施。基礎的なパソコンの操作方法と、少し発展させた複数の画像や動画を組み合わせた動画制作の方法を習得してもらう。期間内の各週月曜日の 13 時～16 時に開催。全 6 回コース。 <table><tr><th></th><th>期 間</th><th>受講者数</th><th>受講率</th></tr><tr><td>A 日程</td><td>5 月 9 日(月)～ 6 月 13 日(月)</td><td>16 名</td><td>200.0%</td></tr><tr><td>B 日程</td><td>7 月 25 日(月)～ 9 月 5 日(月)</td><td>10 名</td><td>125.0%</td></tr></table> ※8 月 15 日(月)はお盆のため休講。		期 間	受講者数	受講率	A 日程	5 月 9 日(月)～ 6 月 13 日(月)	16 名	200.0%	B 日程	7 月 25 日(月)～ 9 月 5 日(月)	10 名	125.0%	平成 27 年度のシニア向けの講座の回数を増やし、よりゆっくりとしたペースで学べるように企画したところ、定員を大きく超える方々からの申し込みがあった。 パソコンソフトの基礎的な操作について学べる時間をもっと増やしてほしいとの受講者の意見が多かったため、平成 29 年度からはその時間をもっと増やした形で開催を検討する。
	期 間	受講者数	受講率										
A 日程	5 月 9 日(月)～ 6 月 13 日(月)	16 名	200.0%										
B 日程	7 月 25 日(月)～ 9 月 5 日(月)	10 名	125.0%										

※（ ）内の数字は、前年度実績

成 果	課 題																																																																
② 出前講座 ※講師はセンター職員が担当 申し込み者の要望に合わせて各種講座等を展開した。 ○ワード基礎講座 <table><tr><th>開催日</th><th>会 場</th><th>受講者数</th></tr><tr><td>7 月 12 日(火)</td><td rowspan="3">丸森まちづくりセンター</td><td>8 名</td></tr><tr><td>7 月 20 日(水)</td><td>6 名</td></tr><tr><td>8 月 9 日(火)</td><td>6 名</td></tr></table> ○パソコンを使った写真・ビデオ編集講座 <table><tr><th>開催日</th><th>会 場</th><th>受講者数</th></tr><tr><td>8 月 23 日(火)</td><td rowspan="2">川崎町公民館</td><td rowspan="2">7 名</td></tr><tr><td>8 月 26 日(金)</td></tr><tr><td>8 月 31 日(水)</td><td>ざおうの杜（蔵王町）</td><td>5 名</td></tr><tr><td>10 月 25 日(火)</td><td>柴田町西住児童館</td><td>5 名</td></tr></table> ○プレゼンテーション講座 <table><tr><th>開催日</th><th>会 場</th><th>受講者数</th></tr><tr><td>5 月 25 日(水)</td><td>ざおうの杜（蔵王町）</td><td>6 名</td></tr><tr><td>12 月 3 日(土)</td><td>白石市中央公民館</td><td>7 名</td></tr></table> ○シニア向けパソコン講座 <table><tr><th>開催日</th><th>会 場</th><th>受講者数</th></tr><tr><td>6 月 28 日(火)</td><td rowspan="5">大河原町中央公民館</td><td>5 名</td></tr><tr><td>7 月 26 日(火)</td><td>5 名</td></tr><tr><td>8 月 30 日(火)</td><td>5 名</td></tr><tr><td>9 月 27 日(火)</td><td>8 名</td></tr><tr><td>10 月 25 日(火)</td><td>5 名</td></tr></table> ○液晶プロジェクター操作講座 <table><tr><th>開催日</th><th>会 場</th><th>受講者数</th></tr><tr><td>8 月 18 日(木)</td><td>角田市東根児童センター</td><td>11 名</td></tr></table> ○16 ミリ映写機操作技術講習会 <table><tr><th>開催日</th><th>会 場</th><th>受講者数</th></tr><tr><td>6 月 16 日(木)</td><td>大河原町上谷児童館</td><td>6 名</td></tr></table> ○出前映画上映会 <table><tr><th>開催日</th><th>会 場</th><th>受講者数</th></tr><tr><td>3 月 24 日(金)</td><td>柴田町西住児童館</td><td>30 名</td></tr></table>	開催日	会 場	受講者数	7 月 12 日(火)	丸森まちづくりセンター	8 名	7 月 20 日(水)	6 名	8 月 9 日(火)	6 名	開催日	会 場	受講者数	8 月 23 日(火)	川崎町公民館	7 名	8 月 26 日(金)	8 月 31 日(水)	ざおうの杜（蔵王町）	5 名	10 月 25 日(火)	柴田町西住児童館	5 名	開催日	会 場	受講者数	5 月 25 日(水)	ざおうの杜（蔵王町）	6 名	12 月 3 日(土)	白石市中央公民館	7 名	開催日	会 場	受講者数	6 月 28 日(火)	大河原町中央公民館	5 名	7 月 26 日(火)	5 名	8 月 30 日(火)	5 名	9 月 27 日(火)	8 名	10 月 25 日(火)	5 名	開催日	会 場	受講者数	8 月 18 日(木)	角田市東根児童センター	11 名	開催日	会 場	受講者数	6 月 16 日(木)	大河原町上谷児童館	6 名	開催日	会 場	受講者数	3 月 24 日(金)	柴田町西住児童館	30 名	昨年度と比較して、開催回数は 4 回、受講者数は 26 名増加した。平成 28 年度はリピーターの団体以外にも、児童館等で新規の申し込みがあったため、少しずつ周知が図られていると考えられる。 今後も広報等でのお知らせに力を入れていき、同時に講座内容を充実させていけるように努める。また、市町の文化財等をテーマとする講座と連携して、地域映像の保存活動に繋げていけるような企画を検討していきたい。
開催日	会 場	受講者数																																																															
7 月 12 日(火)	丸森まちづくりセンター	8 名																																																															
7 月 20 日(水)		6 名																																																															
8 月 9 日(火)		6 名																																																															
開催日	会 場	受講者数																																																															
8 月 23 日(火)	川崎町公民館	7 名																																																															
8 月 26 日(金)																																																																	
8 月 31 日(水)	ざおうの杜（蔵王町）	5 名																																																															
10 月 25 日(火)	柴田町西住児童館	5 名																																																															
開催日	会 場	受講者数																																																															
5 月 25 日(水)	ざおうの杜（蔵王町）	6 名																																																															
12 月 3 日(土)	白石市中央公民館	7 名																																																															
開催日	会 場	受講者数																																																															
6 月 28 日(火)	大河原町中央公民館	5 名																																																															
7 月 26 日(火)		5 名																																																															
8 月 30 日(火)		5 名																																																															
9 月 27 日(火)		8 名																																																															
10 月 25 日(火)		5 名																																																															
開催日	会 場	受講者数																																																															
8 月 18 日(木)	角田市東根児童センター	11 名																																																															
開催日	会 場	受講者数																																																															
6 月 16 日(木)	大河原町上谷児童館	6 名																																																															
開催日	会 場	受講者数																																																															
3 月 24 日(金)	柴田町西住児童館	30 名																																																															

※ () 内の数字は、前年度実績

成 果	課 題						
③ あずなびあまつり（視聴覚教材センターフェスティバル） 視聴覚教材センターの認知度、利用率の向上を目的として開催。おもちゃの交換プログラム『かえっこバザール』と同時に開催することで、参加者の増加と内容の充実を図る。 視聴覚関連ブースの内容については以下のとおり。 ・ DVD教材の上映（大ホール） ・ 16 ミリフィルム教材の上映（ホワイエ） ・ 紙しばいの展示や読み聞かせ（ホワイエ） ・ パネルシアターの読み聞かせ（ホワイエ） ・ 視聴覚機材を使ったゲーム（総合体育館研修室） <table><tr><th>開催日</th><th>会 場</th><th>参加者数</th></tr><tr><td>9 月 19 日(月・祝)</td><td>仙南芸術文化センター 大河原町総合体育館</td><td>2,083 名 (1,346 名)</td></tr></table>	開催日	会 場	参加者数	9 月 19 日(月・祝)	仙南芸術文化センター 大河原町総合体育館	2,083 名 (1,346 名)	平成 27 年度の課題であった映画会等の回転率が悪く、かえっこプログラムと相性がよくない視聴覚ブースについての改善を図るため、平成 28 年度では新たにパネルシアターの読み聞かせや視聴覚機材を使ったゲーム「キャラクター当てクイズ」を企画した。 16 ミリフィルム教材の上映についても、ただ上映するのではなく、段ボールハウスの中で見せることによって、子どもたちが楽しく視聴に集中できるしかけも行った。 そのため、前回と比較しても視聴覚関連ブースに参加する人が増加した。今後もより魅力的な事業なるように、企画を検討する。
開催日	会 場	参加者数					
9 月 19 日(月・祝)	仙南芸術文化センター 大河原町総合体育館	2,083 名 (1,346 名)					

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
○あずなびあまつりに昨年度初めて参加したが、参加者とボランティアの方の数の多さに驚いた。内容もとても充実していた良かった。この事業に限らず、全体的に創意工夫が見られるので、今後もより良い企画を作してほしい。	○今後とも、より充実した内容になるように励んでいき、参加者の増加を図りたい。
○最近、メディアを逆行する動きが見られる。16 ミリフィルムの上映会を企画してみてもどうか。	○物珍しさや懐かしさから要望を出してくれる団体もいると思われるため、実施を検討したい。 しかし、視聴覚教材センターで所有している 16 ミリ映写機が昨年度に故障し、現在は業者でも製品を取り扱っていないため、修繕ができていない。そのため、実施が難しい状況である。
○16 ミリ映写機は、各学校で使わずに眠っているものが多いように思う。センター所有の機材が使えないのであれば、そういったところから譲り受けてはどうか。	○各学校等に調査を依頼し、現在の利用状況や機材の保有数等を把握し、利用していない場合は所管替えが可能か交渉したい。

※（ ）内の数字は、前年度実績

3. 地域学習教材制作の促進と保存事業

事業目的	地域素材を生かした自作視聴覚教材制作の支援と利用促進を図り、地域学習の教育的な効果を高めるとともに、自作視聴覚教材のデジタル化と保存に努める。
事業名	① 仙南地区自作視聴覚教材発表会 ② 地域映像の保存と自作視聴覚教材制作への支援 ③ 自作視聴覚教材のデジタル化

成 果	課 題								
① 仙南地区自作視聴覚教材発表会 自作視聴覚教材の制作技術の向上、教材制作の奨励及び自作視聴覚教材の整備充実を図るため、仙南地区自作視聴覚教材発表会を開催した。 <table><tr><td>開催日</td><td>作品数</td><td>参加者数</td><td>一般視聴者数</td></tr><tr><td>2月7日(火)</td><td>6作品 (6作品)</td><td>6名 (6名)</td><td>3名 (3名)</td></tr></table> ○全国自作視聴覚教材コンクール（平成29年8月開催） 4作品推薦。	開催日	作品数	参加者数	一般視聴者数	2月7日(火)	6作品 (6作品)	6名 (6名)	3名 (3名)	今年も非常に中身の濃い作品が出品され、新規の制作者も2名いたが、全体の応募数は増加しなかった。これからは応募者の心理的なハードルを下げるため、名称及び募集要項についての変更を検討する。
開催日	作品数	参加者数	一般視聴者数						
2月7日(火)	6作品 (6作品)	6名 (6名)	3名 (3名)						
② 地域映像の保存と自作視聴覚教材制作への支援 地域素材を映像に記録・保存したり、地域映像を制作したりする意欲ある団体や個人に対して、センター職員が助言や編集の支援を行い、地域映像の保存を図るとともに、自作視聴覚教材制作への支援を行った。 ○ビデオ編集システムの利用状況 <table><tr><td>学校教育部門</td><td>社会教育部門</td><td>合 計</td></tr><tr><td>6回（4回）</td><td>13回(10回)</td><td>19回(14回)</td></tr></table>	学校教育部門	社会教育部門	合 計	6回（4回）	13回(10回)	19回(14回)	利用実績が前年度比で少し増加した。地域映像の記録に努めることは視聴覚教材センターにとって大きな役割のため、制作支援事業により力を入れていきたい。		
学校教育部門	社会教育部門	合 計							
6回（4回）	13回(10回)	19回(14回)							
③ 自作視聴覚教材のデジタル化 当センターでは数多くの自作視聴覚教材を保有している。現在保有している自作視聴覚教材（アナログ教材）はデジタル化している。	今後は発表会に出品のあった作品のデジタル化に努めたい。								

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
○現在は少額の費用でも自作視聴覚教材が作れるため、前にあった制作補助金を少ない金額で復活してはどうか。	○制作補助金は、金額が少ない場合でも必要な事務手続きは変わらず、また制作者側に提出してもらう書類も出てくるため、手間はかえって増えてしまうと考えられる。まずは違う手立てで制作者の増加に努めたい。

※（ ）内の数字は、前年度実績

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
○派遣社会教育主事の復活などの具体的な手立てを考えないと、仙南地域の教育文化の大きな柱の1つである自作視聴覚教材制作がどんどん衰退してしまうのではないかと。	○派遣社会教育主事の復活は難しいため、それ以外の手立てで制作者の増加に努め、自作視聴覚教材制作をより活気のあるものにしていきたい。
○学校教育では作られているが、社会教育では作られていない。まずは各種会議で担当者への啓発を促してみてもどうか。	○ご意見のとおり、各種会議で自作視聴覚教材制作について啓発していきたい。現在もその中で制作に向けて少しずつ動いている状況である。
○宮城県ではいじめ対策のCMコンクールを実施している。それとタイアップできるかは分からないが、短編部門やCM部門を作ることで、自作視聴覚教材発表会の応募数も増えるのではないかと。	○今はスマートフォンやパソコン等の普及により簡単に映像を編集し、教材を作れる時代である。誰でも簡単に作れる短編部門やCM部門を作り、応募者の心理的ハードルを下げれば、応募数の増加が見込められると思われる。これからの自作視聴覚教材発表会に向け、愛称も含め、募集要項を再検討し、応募数の増加に努めたい。

4. 各種関係団体との連携事業

事業目的	学校教育及び社会教育関係、各地域の団体等と連絡提携を密にし、視聴覚教材センターとしての機能の充実と生涯学習体制の推進を図る。また、その学習要求に応えられるように情報提供の充実に努める。
事業名	① 諸会議関係 (1) 視聴覚教育指導員会議 (2) 学校教育・社会教育専門部会 (3) 社会教育等主管課長会議 ② 広報活動 ③ 現場訪問事業

※（ ）内の数字は、前年度実績

成 果	課 題												
① 諸会議関係 (1) 視聴覚教育指導員会議 構成市町の生涯学習課、公民館職員 9 名を指導員として委嘱し、視聴覚教材センターの P R 活動や、教材利用の促進を図った。任期は 2 年である。 ○年 5 回開催 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開 催 日</th><th>内 容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4 月 21 日(木)</td><td>事業計画等</td></tr> <tr> <td>6 月 21 日(火)</td><td>あずなびあまつり等</td></tr> <tr> <td>8 月 25 日(木)</td><td>あずなびあまつり等</td></tr> <tr> <td>11 月 8 日(火)</td><td>事業計画案等</td></tr> <tr> <td>2 月 7 日(火)</td><td>事業計画案等</td></tr> </tbody> </table>	開 催 日	内 容	4 月 21 日(木)	事業計画等	6 月 21 日(火)	あずなびあまつり等	8 月 25 日(木)	あずなびあまつり等	11 月 8 日(火)	事業計画案等	2 月 7 日(火)	事業計画案等	視聴覚教育に関するあらゆるニーズに応えられるよう、視聴覚教育指導員との連携を密にし、事業を行っていく必要がある。 平成 27 年度の課題であった視聴覚教育指導員の主体的な参加ができる場づくりについては、課題解決できなかったため、引き続き手立てを検討する。
開 催 日	内 容												
4 月 21 日(木)	事業計画等												
6 月 21 日(火)	あずなびあまつり等												
8 月 25 日(木)	あずなびあまつり等												
11 月 8 日(火)	事業計画案等												
2 月 7 日(火)	事業計画案等												
(2) 学校教育・社会教育専門部会（再掲）	(1-②と同様のため省略)												
(3) 社会教育等主管課長会議 予算、決算及び各種事業の実施状況等の説明のため、構成市町社会教育等主管課長会議を開催した。 ○年 2 回開催 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開 催 日</th><th>内 容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6 月 2 日(木)</td><td>事業実施状況報告及び決算</td></tr> <tr> <td>11 月 25 日(金)</td><td>点検・評価、事業計画・予算案</td></tr> </tbody> </table>	開 催 日	内 容	6 月 2 日(木)	事業実施状況報告及び決算	11 月 25 日(金)	点検・評価、事業計画・予算案	当組合教育委員会の事業を推進していくうえで、構成市町社会教育等主管課長の意見や要望を聞き取るうえでも肝要な会議である。構成市町の理解を得て、よりよい事業を展開していけるように努めていきたい。						
開 催 日	内 容												
6 月 2 日(木)	事業実施状況報告及び決算												
11 月 25 日(金)	点検・評価、事業計画・予算案												
② 広報活動 視聴覚教材センター事業の案内と、教材・機材の利用促進、視聴覚教育に関する情報提供を行い、利用率の向上を目指した。発行物については、以下のとおりである。 ○教材センターだより（毎月発行） ○教育委員会要覧（5 月発行） ○教材センターのしおり（5 月発行） ○各種題名一覧（5 月発行） ○教材センター事業の紹介チラシ（5 月発行） ○あずなびあまつりチラシ（9 月発行）	教材センターだよりに記載した教材に対しての予約が入ることもあったため、今後もより利用したいと思えるような広報作りに力を入れていきたい。												
③ 現場訪問事業 視聴覚教育指導員と共に、圏域の社会教育施設等を訪問し情報提供を行い、視聴覚教材・機材の利用促進が図られた。 ○訪問先：公民館（自治センター、まちづくりセンター含む）、保育所（園）、幼稚園、児童館（センター）等 <table border="1"> <thead> <tr> <th>期 間</th><th>訪 問 数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4 月 1 日(金)～6 月 15 日(水)</td><td>11 施設</td></tr> </tbody> </table>	期 間	訪 問 数	4 月 1 日(金)～6 月 15 日(水)	11 施設	平成 27 年度の課題に引き続き、どの施設に対しても同じような形で P R しているため、現場訪問先の利用状況、要望等に合わせた事業の P R 方法を確立にする必要があると思われる。また、訪問数をより増やせる手立てを検討する。								
期 間	訪 問 数												
4 月 1 日(金)～6 月 15 日(水)	11 施設												

※（ ）内の数字は、前年度実績

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
○現場訪問の機会も自作視聴覚教材の制作を促す良い機会であるため、訪問数を増やして、制作者数の増加に努めてほしい。	○現場訪問事業でより大きな効果を生めるようなPR方法を考え、視聴覚教材・機材の利用促進と自作視聴覚教材の制作者の発掘に努めていきたい。
○学校教育の場合、パソコン、プロジェクター、スクリーンが各学級に整備されていることを前提にし、これからどんな視聴覚機材が必要になるかを先取り思考で考え、会議で話し合っしてほしい。	○各学校の教育現場における視聴覚機材の整備状況を調査し、今後求められる機材や支援事業を明らかにすることが肝要と考える。まずは、各学校にアンケート等で調査をしていきたい。
○広報活動では、教材センターだよりの中に新学習指導要領コーナーなどを設け、より現場の先生方を刺激するような教材の紹介をしてみてもどうか。	○今後も利用者がより使いたくなるような広報告知に努めるとともに、こういった教材・機材が求められているかについても調査を行っていきたい。

【仙南広域圏の振興発展に資する事業】

事業目的	子どもたちが興味・関心を持つことのできる事柄を通じて、ことさらに自治体の枠を超えて、圏域の将来の文化活動を担う人材育成すること。また、次代を担う子どもたちと地域の文化を『はぐくむ』ことをテーマとした事業を実施する。
事業名	① AZ9ジュニア・アクターズ養成事業 ② AZ9ワークショップ事業 ③ AZ9パスポート事業

成 果	課 題
① AZ9ジュニア・アクターズ養成事業 2市7町の小学4～6年生を対象に募集を行い、応募者は小学5・6年生の在籍者と併せ、演技、舞踊、音楽など舞台芸術に取り組み、仙南芸術文化センターで定期公演を実施した。 ○定期公演入場者数 930名(1,174名) ○仙台地域公演入場者数 363名	現役アクターズメンバーが例年と比較して10名程少ない影響もあり、公演の入場者数は減少した。今後は現役メンバーを増やす手立てだけでなく、卒業生の協力も得やすい環境づくりも必要になると思われる。

※（ ）内の数字は、前年度実績

成 果	課 題						
② A Z 9 ワークショップ事業 演劇と音楽のワークショップを実施した。 <table><tr><th>事 業 名</th><th>開催日</th><th>参加者数</th></tr><tr><td>歌って踊ろう!! 真夏の大ミュージカル！ ヤッホホ～イ！</td><td>7 月 16～18 日 23・24 日</td><td>21 名</td></tr></table>	事 業 名	開催日	参加者数	歌って踊ろう!! 真夏の大ミュージカル！ ヤッホホ～イ！	7 月 16～18 日 23・24 日	21 名	プロのアーティストのプログラムに触れることで、子どもたちはとてもいきいきと活動していた。今後も引き続き魅力的な事業にしていきたい。
事 業 名	開催日	参加者数					
歌って踊ろう!! 真夏の大ミュージカル！ ヤッホホ～イ！	7 月 16～18 日 23・24 日	21 名					
③ A Z 9 パスポート事業 仙南圏域及び県内 6 圏域の社会教育施設等の無料開放を受けることができるパスポートを、圏域内 2 市 7 町の小・中学校及び支援学校に配布している。 ○パスポート利用状況 ・仙南圏域内相互利用施設：7 施設 3,933 名 (2,959 名) ・仙南圏域内相互利用以外の施設：11 施設 3,970 名 (3,870 名)	利用人数はその年により、増加と減少とを繰り返している。引き続きホームページ等を活用し、利用促進を図る。						

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
○A Z 9 ジュニア・アクターズの入団の際に、オーディション形式を止めたのは良くないのではないか。仮に落ちた場合でも、一生懸命に頑張っていれば、それはそれで勉強になるはずである。	○入団時のオーディションはないが、演劇の役を決めるときに審査をしている。入団後の努力次第で希望する役をできるかどうか大事であると考えている。
○色々な方向に進んだA Z 9 ジュニア・アクターズの卒業生を呼んで、宣伝活動や講演会をアウトリーチ活動に合わせて、実施してみてもどうか。	○募集チラシを配布するだけよりも応募数増加の高い効果が見込まれるため、検討していきたい。学校側の協力が必要不可欠なため、まずは学校と調整を図りたい。
○A Z 9 パスポートの利用者が昨年度と比較して増加しているが、その理由を把握し、分析してみてもどうか。	○現在は各施設から利用者数の報告をもらっているだけであり、利用者数の増減理由については把握していなかった。今後は増減があった場合に、施設に問い合わせをし、理由の把握に努めたい。

※ () 内の数字は、前年度実績

【仙南芸術文化センター事業計画】

1. 圏民参加・体験・交流事業

事業目的	地域文化創造事業で育んだ成果を、住民主体による手作りの舞台制作により発表。「創る」「感動する」喜びの発見、体験に資する事業として開催する。併せて住民企画の文化振興を支援し、文化芸術の振興に寄与する。
事業名	① えぞこシアター第19回公演「パンとギターとこけしとわたし」 ② えぞこミュージック♪アカデミーコンサート20th ③ AZ9ジュニア・アクターズ第24回公演「村田スカイマメーズ」 ④ あずなびあまつり ⑤ えぞこ圏民企画劇場

成 果						課 題	
① えぞこシアター第 19 回公演 「パンとギターとこけしとわたし」						今年度も、山の手事情社の倉品淳子の指導、演出のもと、参加者のアイディアを盛り込みながら、質の高い作品ができあがり、観客の評価も高かった。また、2016 年 5 月、2 度目の韓国光州平和演劇祭参加。ロシア、フランスなど海外他劇団とも交流するなど、活動の幅が広がった。更に、若手劇団員による駆け出しレインボーが、自主公演『若気の至り』を上演。里帰り公演やキャラバンの活動も含め、充実した活動となった。	
開 催 日		会 場	入場者数	入場率	参加者数		
8 月 27 日 (土)	昼	平土間 ホール	199 名	90.5%	23 名		
	夜		155 名	70.5%	23 名		
8 月 28 日(日)			216 名	98.2%	23 名		
【概 要】劇団山の手事情社の俳優・倉品淳子が構成・演出を担当し、今年で19回目を迎えたえぞこシアター公演。今回は、地元で取材を重ねて芝居を創作するインタビュー劇にチャレンジした。メンバーが3つのチームに分かれてそれぞれ行った地域のパン屋、高校ギター部、こけし工房でのインタビューをもとに、地域の魅力を芝居に仕立て上げた。個性溢れる演技、筋立てのないドラマで、笑いあり、ダンスありの遊び心たっぷりの舞台が好評だった。里帰り公演：6回実施。入場者数合計294名。							
② えぞこミュージック ♪アカデミーコンサート 20th						実行委員会の委員が毎年変わり、ゼロからのスタートとなるため、継続的なレベルアップを図るのが難しい点が課題。今年度は 20 周年の節目の年に当たり、全団体による合同演奏を行うなど熱の入ったステージを展開した。このモチベーションを維持し今後の活動に繋げていきたい。	
開 催 日		会 場	入場者数	入場率	参加者数		
11 月 27 日(日)		大ホール	630 名	87.7%	140 名		
●参加者内訳							
出 演 者	えぞこギター♪アンサンブル						
	えぞこ♪男声合唱団					13 名	
	えぞこヴァイオリン&チェロ♪アカデミー					14 名	
	e ☆ G G					13 名	
	えぞこウィンド♪アンサンブル					52 名	
	司会（宮田敬子／フリーアナウンサー）					1 名	
他	舞台スタッフ・ボラスタッフ					20 名	
【概 要】えぞこホールを拠点に活動をする 5 つの住民音楽グループによる合同コンサート。							

成 果	課 題																		
通称「アカコン」の名で親しまれるこのコンサートは、各団体の代表者が実行委員会を編成、企画・運営を担当し開催している。今年えずこホールが開館20年を迎えるのと同じく、アカコンも開催20回目を記念した。「新たな旅立ち」をテーマに、5つのグループがそれぞれにテーマに沿った音楽を演奏。えずこ男声合唱団は講師の細渕誠一さんが作詞・作曲した「二十歳のえずこに」も披露した。コンサートでは全22曲が披露され、フィナーレでは「BELIEVE」を参加者と観客、全員で合唱。多くの観客から温かい拍手が送られた。																			
③ A Z 9ジュニア・アクターズ 第24回公演 「村田スカイメーズ」 <table><tr><th>開 催 日</th><th>会 場</th><th>入 場 者 数</th><th>入 場 率</th><th>参 加 者 数</th></tr><tr><td>2月18日(土)</td><td rowspan="2">大ホール</td><td>417名</td><td>76.9%</td><td>80名</td></tr><tr><td>2月19日(日)</td><td>513名</td><td>94.7%</td><td>85名</td></tr></table> 【概 要】仙南圏域の2市7町の小学4年生～6年生で構成する児童劇団A Z 9ジュニア・アクターズ。5月から約10か月間の稽古を重ね、地域のイベントに出演するなどさまざまな活動にも取り組んだ。毎年2月の公演では、仙南圏域の歴史や文化を題材にしたオリジナル作品を上演しているが、今年は村田町の白鳥神社にまつわる蛇藤伝説や鬼の物語を題材に、町を鬼の魔の手から救おうとする主人公ソラマメたちの純粋な想いが描かれた。輝く笑顔とエネルギッシュなダンス満載のステージは毎年楽しみにしている方も多く、会場からは温かい拍手が送られた。	開 催 日	会 場	入 場 者 数	入 場 率	参 加 者 数	2月18日(土)	大ホール	417名	76.9%	80名	2月19日(日)	513名	94.7%	85名	はつらつとした演技、ダンスが毎回好評を博している。仙南地域の素材を題材にオリジナル作品を仕上げており、今年も地域密着型の創造溢れる演劇作品と高い評価をいただいた。今後事業の継続展開、育てる会（保護者の会）や地域との連携などが課題となっている。				
開 催 日	会 場	入 場 者 数	入 場 率	参 加 者 数															
2月18日(土)	大ホール	417名	76.9%	80名															
2月19日(日)		513名	94.7%	85名															
④ あずなびあまつり ～えずこホール&はねっこアリーナ全館かえっこ～ <table><tr><th>開 催 日</th><th>会 場</th><th>入 場 者 数</th><th>ス タ ッ フ 数</th></tr><tr><td>9月19日(月)</td><td>※</td><td>2,083名</td><td>159名</td></tr></table> ※えずこホール全館、はねっこアリーナ（研修室・会議室・剣道場） ●参加者内訳 <table><tr><td colspan="2">第1回打ち合わせ会</td><td>13名</td></tr><tr><td rowspan="3">本 番</td><td>入場者（大人）</td><td>957名</td></tr><tr><td>入場者（子ども）</td><td>1126名</td></tr><tr><td>スタッフ （住民創造グループほかボランティア）</td><td>159名</td></tr></table> 【概 要】日ごろ劇場に足を運ぶことが少ない子どもたちに向けてさまざまなワークショップを同時展開するプログラムで、2008年度の第1回目から毎年1,000人以上で賑わう人気のイベント。プログラムの中心となるのは、いらなくなったおもちゃを交換す	開 催 日	会 場	入 場 者 数	ス タ ッ フ 数	9月19日(月)	※	2,083名	159名	第1回打ち合わせ会		13名	本 番	入場者（大人）	957名	入場者（子ども）	1126名	スタッフ （住民創造グループほかボランティア）	159名	昨年度から装いも新たに始まったあずなびあまつり、えずこホールとはねっこアリーナを全館使って、子どもたち向けのさまざまな参加体験企画を展開した。参加団体も増え、参加者数が二千人を超えるなど、今までで最も大きな規模となった。 かえっこバザールは、少ない予算で子どもたちに様々な体験を楽しく促す事業としてとても優れている。今後とも発展的に継続していきたいと考えている。スタッフの増員、市町村との連携強化が課題である。
開 催 日	会 場	入 場 者 数	ス タ ッ フ 数																
9月19日(月)	※	2,083名	159名																
第1回打ち合わせ会		13名																	
本 番	入場者（大人）	957名																	
	入場者（子ども）	1126名																	
	スタッフ （住民創造グループほかボランティア）	159名																	

成 果	課 題										
る「かえっこバザール」。人気はすっかり地域に定着し、来場した多くの親子連れは、平土間ホールにずらりと並べられたおもちゃを囲んで交流しながら楽しんだ。また視聴覚コーナーでは大ホールを会場に名作・短編映画会が行われたほか、ホワイエでは、手作りダンボールミニシアターでの 16 ミリ映画上映会など優れた教材や視聴覚の魅力を広く地域の皆さんに知っていただく機会となった。さらに、参加アーティストの柏木陽（演劇家）による約 200 人が参加した大規模な演劇ワークショップも大好評となった。ほかにも、住民グループによる楽器演奏体験やミニコンサート、児童劇団のダンス体験教室、消防＆救急救命体験、紙芝居や折り紙、クイズなど、全館を使って盛りだくさんの体験コーナーが展開された。											
⑤ えぞこ圏民企画劇場 ■フルーツ☆ボックス「ファミリーコンサート 2016」 <table><tr><th>開 催 日</th><th>会 場</th><th>入場者数</th><th>出演者数</th><th>料金</th></tr><tr><td>6 月 18 日(土)</td><td>平土間ホール</td><td>205 名</td><td>23 名</td><td>無料</td></tr></table> ●主催：フルーツ☆ボックス 【概 要】小さな子ども向けのイベントが少ない仙南地域で人気のファミリーコンサート。地域住民による有志グループが毎年手作りして企画し開催している。約 1 時間の公演時間に、親しみやすいポップスバンドの演奏、あやつり人形劇（「ももたろう」）などプログラムに工夫をこらしている。会場の平土間ホールに絨毯を敷き、リズムに合わせて体を動かし、ステージで一緒にみんなで歌って踊ったりと今年も多いに盛り上がった。	開 催 日	会 場	入場者数	出演者数	料金	6 月 18 日(土)	平土間ホール	205 名	23 名	無料	仙南地域に住む方々が地域に根ざして展開する企画を支援する事業。左記 8 企画について、審査会の審議を経て支援をした。応募企画はそれぞれ地域に根ざし充実した素晴らしい企画であった。今後とも広報、告知を強化し、更にたくさんの事業を支援していきたいと考えている。
開 催 日	会 場	入場者数	出演者数	料金							
6 月 18 日(土)	平土間ホール	205 名	23 名	無料							
■津軽三味線 じょんからおぼこ～ここにある未来～ <table><tr><th>開 催 日</th><th>会 場</th><th>入場者数</th><th>出演者数</th><th>料 金</th></tr><tr><td>7 月 29 日(金)</td><td>平土間ホール</td><td>432 名</td><td>32 名</td><td>3,000 円</td></tr></table> ●主催：びいなす 【概 要】民謡や津軽三味線の大会で功績を残し、海外公演も果たす小田島会に所属する 10～18 歳の子どもたちが中心となった公演。津軽三味線奏者として、人気、実力共に兼ね備えた浅野祥も特別出演した。世代の垣根を超え、未来の民謡・津軽三味線界を担う子どもたちによる力強い演奏が、大ホールいっぱいに響いた。	開 催 日	会 場	入場者数	出演者数	料 金	7 月 29 日(金)	平土間ホール	432 名	32 名	3,000 円	
開 催 日	会 場	入場者数	出演者数	料 金							
7 月 29 日(金)	平土間ホール	432 名	32 名	3,000 円							

成 果					課 題
■AZ ミュージック・フェスティバル 20th					
開 催 日	会 場	入場者数	出演者数	料金	
7 月 31 日 (日)	平土間ホール 屋外劇場 屋外スペース	1,000 名 (延べ)	210 名※	無料	
●主催：AZ ミュージック・フェスティバル実行委員会 ※出演者は仙南地域に住む音楽家（プロ・アマ問わず） 【概 要】夏の暑さを吹き飛ばす、野外ミュージックイベント。 記念すべき 20 回目を迎え、「アズフェス」の愛称で定着。4 つの ステージを備えた仙南最大級の音楽イベントでもあり、飲食ブー スや子どもも楽しめるように創作ブースを設けるなど、さまざま な工夫が凝らされている。出演者、観客共に音楽をこよなく愛す る人々が集まり、交流を広げ、大いに盛り上がった。					
■第2回仙南地方の民話交流のつどい					
開 催 日	会 場	入場者数	出演者数	料金	
10 月 29 日(土)	平土間ホール	200 名	26 名	無料	
●主催：仙南地方の民話交流実行委員会 【概 要】午前の部は 3 つの会場に分かれ、それぞれ柴田、川崎、 丸森の語り手による民話の語り合いが行われた。お昼の部は昼食 をとりながら参加者の日ごろの活動の情報交換の場になった。午 後の部は、約 45 年もの間、県内や東北地方各地の民話を訪ねて 歩き、また「みやぎ民話の会」の顧問でもある小野和子さんが、 「民話のおもしろさ、ふかさ、つよさ」と題し講演。参加者から の質問も多数出て、内容が深堀りされた。また、南三陸町の「志 津川民話の会」からの参加もあり、仙南地域を越えて民話の交流 を深める貴重な機会となった。					
■第 12 回 新春コンサート ～仙南地区ゆかりの教職員による～					
開 催 日	会 場	入場者数	出演者数	料金	
1 月 15 日(日)	大ホール	300 名	25 名	無料	
●主催：仙南地区教職員研究演奏会実行委員会 【概 要】12 回目を迎えた新春コンサート。普段は音楽を表現 する楽しさを伝え、指導する立場の教職員の方々が、これまで 研鑽を積んできたものを表現した。トランペットやピアノ、ク ラリネットなどの楽器の独奏や独唱のプログラムが続き、来場 者は1人1人の出演者によるのびやかな演奏を楽しんだ。演目の 最後は、恒例となっている合唱曲『大地讃頌（カンタータ「土 の歌」）より』の記念合唱があり、出演者に加えて関係者、そ して出演者の教え子の生徒さんも参加する、華やかなフィナー レとなった。					

成 果					課 題
■DAN DAN DANCE&SPORTS 13th					
開 催 日	会 場	入 場 者 数	ス タ ッ フ 数	料 金	
1 月 28 日(土)	大ホール	310 名	180 名	無料	
●主催：仙台大学・DAN DAN DANCE&SPORTS 実行委員会					
【概 要】仙台大学の学生を中心に、地域の大学、高等学校、ダンス・スポーツ団体、福祉グループなど幅広いジャンルから多くの人々が参加する身体表現のイベント。仙南圏域にとどまらず、仙台や福島からなど、今年は過去最多の 23 団体が参加。ジャンルもヒップホップやコンテンポラリーダンス、新体操など多彩で、それぞれに工夫が凝らされたパフォーマンスがステージ上で繰り広げられた。今年はゲストダンサーとして台湾のダンスチームが招聘され、台湾の民族舞踊も交えた力強いダンスに、身体表現の奥深さを垣間見るものとなった。					
■2017 プラスフィエスタ in 仙南 ～吹奏楽の祭典～					
開 催 日	会 場	入 場 者 数	ス タ ッ フ 数	料 金	
2 月 5 日(日)	大ホール	830 名	400 名	無料	
●主催：宮城県仙南地区吹奏楽連盟					
【概 要】仙南地域の小中高校吹奏楽部22団体と社会人4団体、総勢400人が参加。演奏レベルの異なる個人やグループと一緒に演奏をすることで、互いに刺激し合い、交流が生まれている。特に中高生にとっては貴重な経験になっており、関係者から高い評価を得ている。当日は2階席まで満席となり、大ホールが溢れんばかりの多くのお客様に包まれて幕を閉じた。各団体は常に一緒に練習を積んでいるかのような、迫力のある合同演奏を見せた。					
■AZoo 演劇公演第 3 回「カラフル」					
開 催 日	会 場	入 場 者 数	ス タ ッ フ 数	料 金※	
3 月 19 日(土)	平土間	75 名	36 名	一般 800 円 学生 500 円	
3 月 20 日(日)	ホール	58 名			
※当日は料金 200 円増し。					
●主催：AZoo					
【概 要】AZ9（AZ9 ジュニア・アクターズの卒業生による演劇プロジェクト公演。3 作目となる本作は、本番を控えるバンドグループ、お笑い芸人、アイドルらが楽屋裏で織りなす人間模様を面白おかしく描いた 3 部作で、オリジナルの脚本と演出で作り上げられた。それぞれが抱えるさまざまな感情を描いた舞台はまさに「カラフル」そのもの。若手メンバー中心のプロジェクトであり、AZ9 ジュニア・アクターズの可能性や仙南地域における演劇の底上げにいっそう期待がかかる。					

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
○民話交流のつどいは、参加された方から評判が良かった。参加者も大きく増えているため、今後も継続して行ってほしい。	○継続実施できるよう支援していきたい。
○住民の企画を支援していくことは、新しい文化の創造に繋がるため、これからも取り組んで行ってほしい。	○住民の自主的、主体的な文化活動は地域の文化の裾野を広げる事業として大切なものと考えている。今後も様々な形で支援していきたい。

2. 地域文化創造事業

事業目的	圏域住民が主体的に文化活動を展開し、「参加する」「表現する」「交流する」ことで、圏域住民の活性化を促進し、併せて地域の文化リーダーの育成を図る。
事業名	① えぞこシアター ② えぞこヴァイオリン♫&チェロ♫アカデミー ③ えぞこウィンド♫アンサンブル ④ えぞこ♫男声合唱団 ⑤ えぞこギター♫アンサンブル ⑥ e☆G G（えぞこ☆ゴスペル） ⑦ えぞこボランティアスタッフ ⑧ えぞこキッズクラブ（託児ボランティアスタッフ）

成 果	課 題
① えぞこシアター 昨年引き続き韓国光州平和演劇祭への参加という2度目の海外公演を果たし、活躍の場を広げているえぞこシアター。構成・演出は10年目となる倉品淳子（劇団山の手事情社／俳優・演出家）。メンバーそれぞれの個性を引き出し、独創的で魅力的な世界観を、メンバーと一丸となって創りあげている。自主公演を毎年楽しみにしているファンも多く、平土間ホールで毎年8月に行われる公演はいつも満席となっている。また、若手メンバーで結成された、若手劇団駆け出しレインボーは、『若気の至り』を上演（平成28年10月22日（土）、観客60名、参加者20名）。キャラバン（2回実施。観客数460名）の活動も含め、シアターの活動は広がりを見せた。 ●団員数（参加者数）：20名 ●参加者延べ人数：1,670名	倉品淳子の指導、演出で、高いモチベーションを保持し質の高い活動となっている。海外公演、若手劇団駆け出しレインボー、里帰り公演やキャラバンの活動など、活動に広がりや深まりが出てきている。この状況を発展的に継続していきたい。

成 果	課 題
② えずこヴァイオリン&チェロ♪アカデミー 5歳児から在籍し弦楽器演奏に取り組んでいるヴァイオリン&チェロアカデミー。弦楽器演奏の技術向上、表現することの楽しさを体験してもらうため、月2～3回の講師による個別指導を基本として活動しているが、これまでの課題の1つであった合奏体験の充実を図った。地域に出向くキャラバンとして「佐藤屋で会いましょう」や「えずこせいじんカフェ」で発表を重ね、えずこミュージック♪アカデミーコンサートでは、弦楽ワークショップ参加者たちと一緒に日ごろの練習の成果を披露。ステージを重ね多くの観客から暖かい拍手が送られたことは、在籍者の自信へとつながった。仙南地域では弦楽器を学べる場が少ないため、弦楽器普及の観点からも貴重な場である。 ■えずこヴァイオリン♪アカデミー●参加者数:5名 ●参加者延べ人数:207名 ■えずこチェロ♪アカデミー●(参加者数):4名 ●参加者延べ人数:163名	ヴァイオリン&チェロ♪アカデミーは順調に活動を展開している。参加希望者が多いヴァイオリン♪アカデミーでは指導者が不足しているため充実させていく必要がある。 次年度から、一般参加者を含めた合奏クラスを立ち上げるべく準備を進めている。
③ えずこウィンド♪アンサンブル 毎週火曜、主に平土間ホールを会場に定期練習を行っている。7月3日には自主企画公演えずこウィンド♪アンサンブル第18回チャリティーコンサートを開催(観客数=643名、参加者数=97名)。「海」をテーマとした曲の数々を披露。大海原を多彩な音色で表現した。自主練習のほかにも地域の中学や高校との交流プログラムやワークショップなど、地域とのつながりを重視している。●団員数(参加者数):53名 ●参加者延べ人数:2,863名 ウィンドキャラバン/16回実施、観客数500名。	毎年新しい参加者が加わり、地域貢献活動も含め、活気あふれる活動を展開している。幅広い年齢層で構成されているため、年代間の意思疎通が課題となっている。
③ えずこ♪男声合唱団 平均年齢60代後半と住民創造グループの中で最も参加者の年齢が高い団体の男声合唱団。6月12日には第11回目の自主企画公演を開催(観客数=365名、参加者数=25名;客演・女声コーラス・レジーナ含む)。熟年世代の活動に注目が集まる中、男声合唱団内で「ダブル・ヴィレッジ」と「オールド・ビアン・カルテット」と2団体を組織し、えずこせいじんカフェなどで活動の幅を広げた。また、今年度はアウトリーチ事業(1回、観客数85名)も行った。 ●団員数(参加者数):14名 ●参加者延べ人数:752名	自主コンサートのほか、キャラバン事業への取り組みにも意欲的であり、モチベーションも高くなってきている。参加者も漸増しているが、若年層の参加が課題である。

成 果	課 題
④ えずこギター♪アンサンブル 第14回目の自主コンサートを平成28年6月26日に大ホールで開催（観客505名、参加者数＝33名）。定期練習を毎週水曜日、練習室1・3を会場に行っており、平成26年の初心者向けギターワークショップから団員が漸増している。新たなメンバー「えずこギター♪フレッシュャーズ」を加え、活発な活動を行っている。地域に出向いてのアウトリーチ事業にも積極的に取り組んでおり、今年度は学校や福祉施設でミニコンサートを4回行い、620名の方に鑑賞いただいた。。●団員数（参加者数）：15名、フレッシュャーズ:20名 ●参加者延べ人数：1,300名	フレッシュャーズが増え、活動が盛り上がりモチベーションも高まっている。自主コンサートも毎年好評で、アウトリーチも積極的に展開。充実した活動の発展的展開が期待される。
⑥ e☆GG（えずこ☆ゴスペル 通称：エッグ） グループ名「e☆GG（エッグ）」は女性が9割だが、男性陣も負けてはいない。迫力のある低音と絶妙なハーモニー、パワフルな歌声で観客を魅了している。大河原町内にある寺や山元町でキャラバン活動（実施数7回、観客数655名）を幅広く行った。アカデミーコンサートでは、ロビーでえずこ♪男声合唱団やえずこギター♪アンサンブルとコラボレーションし、会場を盛り上げた。●団員数：11名 ●参加者延べ人数：404名	自主運営の体制強化も図られ実力もついてきている。アウトリーチの回数も増え活動の今後の活動の展開が期待される。
⑦ えずこホールボランティアスタッフ えずこホールの主催事業やイベントの際に、受付（もぎり・パンフレット配布など）や会場・客席誘導、バーカウンターサービスなどの接客サービス面をサポートするホールボランティアスタッフ。接客サービスの向上のため研修会やミーティングなどを開催している。さらに、活動に参加する毎にポイントを発行し、ポイントがたまると、主催事業の招待券などがもらえる制度を導入している。バーカウンターで季節に合わせてメニューや装飾に工夫を凝らすなど、来場者が楽しめるホールづくりにも取り組んでいる。●団員数（参加者数）：25名●参加者延べ人数：294名	課題として、メンバーの固定化と高齢化があげられ、新規参加者をどのように増やしていくか検討する必要がある。また、サービスのための意識向上も課題となっている。
⑧ えずこキッズクラブ（託児ボランティアスタッフ） 「こどもがいるからえずこホールに公演を見に行けない」そんな声を解消するため、えずこホール主催事業（鑑賞事業）の開催時に託児ルームを開設し、お子様をお預かりする活動を行っている。1人500円というリーズナブルな金額も好評で、小さいお子様がいるご家族にもゆっくりと事業を鑑賞していただくことができています。また、月に一度のペースで開催している「えずっこひろば」も人気。子育て世代でも文化ホールに気軽に足が運べるよう取り組んでいる。●参加者数：25名●参加者延べ人数：107名	小さいお子様をお持ちの方々がゆっくり公演を鑑賞いただくための託児ボランティア、定着し好評をいただいている。「えずっこひろば」も発展的に継続していきたい。

有識者による意見・評価	意見に対する対応等

3. 鑑賞事業

事業目的	音楽、演劇、古典芸能、異文化体験プログラムほか、広いジャンルの中からの厳選し、優れた舞台表現にふれる機会を提供するとともに、併せて「参加」「体験」できるプログラムを開催し、多面的な地域の文化振興を図る。
事業名	① えぞこ寄席 2016 柳家小三治 一門会 ② Co.山田うん 「結婚」・「春の祭典」 ③ 巨竹オーケストラ スアール・アグン【中学生招待公演】 ④ 巨竹オーケストラ スアール・アグン【一般公演】 ⑤ シエナ・ウインド・オーケストラ演奏会 ⑥ 日野皓正スペシャルライブ with Guest 綾戸智恵、大西順子トリオ ⑦ 二兎社「ザ・空気」

成 果		課 題														
① えぞこ寄席 2016 柳家小三治 一門会		毎年人気のえぞこ寄席。柳家小三治が登場。巧みな話術に会場は酔いしれた。今後も熟練、巧者の噺家を招聘し、質の高い企画として継続していきたいと考えている。														
<table><tr><td colspan="2">開 催 日</td><td>会 場</td><td>入場者数</td><td>入 場 率</td></tr><tr><td rowspan="2">6月4日 (土)</td><td>昼</td><td rowspan="2">平土間ホール</td><td>229名</td><td>97.9%</td></tr><tr><td>夜</td><td>226名</td><td>96.6%</td></tr></table>		開 催 日		会 場	入場者数	入 場 率	6月4日 (土)	昼	平土間ホール	229名	97.9%	夜	226名	96.6%		
開 催 日		会 場	入場者数	入 場 率												
6月4日 (土)	昼	平土間ホール	229名	97.9%												
	夜		226名	96.6%												
【概 要】どの席からでもよく見える演芸場さながらの空間づくりで、寄席ならではの距離感を演出するえぞこ寄席。同コンセプトでのえぞこ寄席は今年で10年目。地域に定着し前売り券は売り切れるほどの人気ぶりが続いている。今回は、昨年度公演した故・柳家喜多八の師匠で、落語界では3人目となる重要無形文化財（人間国宝）に認定され、当代一の落語家と呼ばれる柳家小三治が満を持して登場。人間という存在の可笑しさ、可愛らしさが自然と浮かび上がってくる話芸に、会場は魅了された。仲入り前は、丁寧な描写、古典落語に真剣に向き合う姿勢で将来を期待されている噺家・林家ろべえに加え、平成17年に文化庁芸術史新人賞の柳家はん治が務めた。																

成 果				課 題
② Co.山田うん 「結婚」・「春の祭典」				山田うん（平成 26 年度芸術選奨 文部科学大臣新人賞受賞）による演出は圧巻。今回、初めてコンテンポラリーダンスを見た方も多く、高齢の方も含めアンケートではその新鮮な驚きと感動がたくさん寄せられた。
開 催 日	会 場	入場者数	入 場 率	
7 月 8 日(金)	大ホール	400 名	88.1%	
●振付・演出：山田うん ●出演：荒悠平、飯森沙百合、伊藤知奈美、川合ロン、小山まさし、酒井直之、城俊彦、西山友貴、長谷川暢、広末知沙、三田謡子、山下彩子、山田うん				
【概 要】20世紀のダンスと音楽に歴史的革命を起こした『春の祭典』。ロシア音楽界の巨匠イゴール・ストラヴィンスキーの音楽に合わせ、山田うん率いるカンパニーが生命感溢れるダンスを披露した。多様なリズムと複雑な和音の一音一音にびったり寄り添うように振付をしていくことで、まるで音楽より前にダンスがあったかのようにさえ感じる、ダイナミックかつ繊細な振付の群舞。国内外の劇場で話題を呼び、再演を重ねているCo.山田うんの人気作だ。『結婚』は男女のデュオで婚礼を通した人間性と人間模様を描き、世界の劇場でも喝采を浴びた作品。ダンサーたちの鍛えられた身体によるエネルギッシュなダンスが繰り広げられた				
③ 巨竹オーケストラ スアール・アグン【中学生招待公演】				感受性の瑞々しい中学生に、本物の舞台、優れた作品、異文化に触れていただく企画。中学生招待公演では、音楽鑑賞のほかケチャの体験ワークショップも行い、日ごろ触れることのないリズムを肌で体感。深い異文化体験となった。
開 催 日	会 場	入 場 者 数		
9 月 27 日(火)	大ホール	742 名		
●対象（参加校）：大河原中、金ヶ瀬中、船岡中、槻木中、船迫中、村田第一中、村田第二中 各中学 2 年生、特別支援学級生徒（1～3 年生）				
【概 要】中学生公演では、集団で手をひらひらさせてケチャケチャ発声する、バリ島の舞踊・「ケチャ」を体験するワークショップも開催。スアール・アグンメンバーから踊りのレクチャーを受けた中学生たちは、ステージ上の迫力あるジェゴグの響きに合わせホールの座席で手の動きや発声を行い、会場全体が盛り上がった。中学生のアンケートからは「とても心に響く音でした。もっと多くの世界の文化を知りたい」「初めて見る楽器に初めて聴く音色、すごく良かった」「竹だけであんなに迫力ある音が出ているのがすごい」など多くの感想が寄せられた。演奏やダンスはもちろん、バリ島の歴史・文化や、ジェゴグの音階が持つ宗教的な意味合いの説明もあり、体感的な異文化体験となった。				

成 果				課 題
④巨竹オーケストラ スアール・アグン【一般公演】				
開 催 日	会 場	入場者数	入 場 率	
9 月 27 日(火)	大ホール	482 名	83.8%	
【概 要】インドネシア・バリ島に伝わる竹のガムラン音楽「ジェゴグ」の最高峰グループスアール・アグン。第二次大戦、独立戦争の動乱期を経て途絶えていたジェゴグを復活させたグループで、海外公演も数多く行っている。舞台上には、バリ島西部ヌガラ地方のみに伝わる巨大な竹製の打楽器・ジェゴグが組み立てられ荘厳な雰囲気に。「大地の響き」と称されるアンサンブルは、まるで地面がうねっているような重低音の圧倒的迫力のサウンドで、神秘的なダンサーの踊りと共に会場も酔いしれた。開演前にはホワイエでインドネシア料理の食事提供や物産販売もあり、インドネシアの雰囲気を存分に楽しめる企画となった				
⑤ シエナ・ウインド・オーケストラ演奏会				
開 催 日	会 場	入場者数	入 場 率	
10 月 1 日(土)	大ホール	750 名	93.5%	
【概 要】国内吹奏楽界を牽引、「題名のない音楽会」などテレビ番組にも多数出演し、絶大な人気を誇るシエナ・ウインド・オーケストラ。「シング・シング・シング」などの名曲からオリジナルレパートリーまで、躍動感ある演奏とユーモアに富むパフォーマンス満載の白熱のステージが繰り広げられた。日本が世界に誇るサクソフォン奏者・須川展也は、指揮と演奏で客席を沸かせた。楽器を持ってきた観客もステージ上で演奏に参加するという同オーケストラの定番アンコール「星条旗よ永遠なれ」には、地域の吹奏楽愛好家などが好きな楽器を持って参加。客席と一体化したすばらしいステージだった。				
⑥ 日野皓正スペシャルライブ with Guest 綾戸智恵、大西順子トリオ				
開 催 日	会 場	入場者数	入 場 率	
11 月 11 日(金)	大ホール	746 名	95.2%	
【概 要】2013年度からのシリーズ企画「日野皓正スペシャルライブVol.3」。世界の第一線を走り続ける日本ジャズ界の重鎮、日野皓正が、一流アーティストと夢の饗宴を果たすという、えずこホールだけの特別企画。3回目となる今回は、スペシャルゲストにジャズシンガーの綾戸智恵を迎えた。日野の濃密なトランペットの音色に綾戸のパワフルな歌声が絡み合うエネルギッシュな演奏、そして2人の笑い満載の巧みなトークに、会				
			異文化体験事業として開催。アンケートでは、素晴らしい異文化に触れた感動が多数寄せられた。インドネシア料理の食事提供や物産販売も好評を得た。世界には素晴らしい音楽文化が溢れている。今後とも様々な文化を紹介していく。	
			国内吹奏楽界で絶大な人気を誇るシエナ・ウインド・オーケストラ。親しみやすい楽曲の展開に、若い世代から熟年世代まで大いに盛り上がり大好評を得た。今後もこのようなコンサートを継続開催したいと考えている。	
			日野皓正スペシャルライブ 3 回目。えずこホールだけの特別企画として観客の満足度も非常に高かった。今後とも様々なオリジナル企画を提供していきたいと考えている。	

成 果				課 題
場もヒートアップ。さらに、日野皓正クインテットに先立っては、2015年に活動を再開した世界的ジャズピアニストの大西順子のトリオが登場するという豪華さ。大西トリオは、艶やかで濃密な大人のステージを繰り広げた。				
⑦ 二兎社「ザ・空気」				
開 催 日	会 場	入場者数	入 場 率	2014 年度芸術選奨文部科学大臣賞に輝くなど、話題沸騰の二兎社・永井愛の新作公演。社会派、ウェルメイドの劇作家として評価が高く、今回も鋭い分析、ストーリー展開の妙で観客を引き付けた。アフタートークにも 152 名が参加し好評を得た。
3月10日(金)	大ホール	685名	90.8%	
●作・演出：永井愛 ●出演：田中哲司、若村麻由美、江口のりこ、大窪人衛、木場勝巳				
【概 要】永井愛が作・演出を務める二兎社の2年ぶりとなる新作書き下ろし作品。人気報道番組の現場を通して、日本を覆う奇妙な“空気を読む”という現象を描く現代劇。テレビ局の中堅幹部と彼を取巻く人々が、空気に巻き込まれ思惑が交錯していく様がリアルに描かれた。今回で5回目となるえずこホールでの二兎社作品上演。東京公演では毎公演キャンセル待ちの行列ができたという人気公演だが、えずこホールでも客席はほぼ満席となった。				

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
○スアール・アグンの中学生招待公演は、異文化を中学生のうちに体験させることによる将来の文化創造に繋がり、また保護者の負担を軽減することもできるため、とても良い取り組みだと思う。	○感受性の瑞々しい中学生が、異文化体験をはじめさまざまな文化に触れ、体験することは、創造的な人間形成に大きな役割を果たすと考えます。今後とも優れた文化に触れ、体験する機会を提供していく。
○二兎社「ザ・空気」では演劇公演終了後のアフタートークで出演者や制作スタッフと触れ合える機会があり、観客にとってはとても魅力的な時間であったと思う。	○アフタートークは、作品の背景や意図を深く知る機会となるものであり、たくさんの方々から好評をいただいている。今後も継続開催していく。

4. アウトリーチ（エデュケーション・プログラム）

事業目的	学校、福祉施設、病院等を対象に、ホールに来館する機会の少ない、あるいは出来ない方々を対象にホールが地域に出向いて、一流のアーティスト、そして住民創造グループがエデュケーション・プログラム（教育普及事業）、交流事業として参加体験型で展開し、地域と人の活性化を図る。
事業名	① アーティストキャラバン ○ 音楽アウトリーチ（クラシック） （１）田村緑（ピアノ）× 田島隆（タンバリン） （２）神谷未穂（ヴァイオリン）×中川賢一（ピアノ） （３）田村緑（ピアノ） ○ 演劇等アウトリーチ （１）岩淵吉能(俳優) （２）柏木陽（演劇家） （３）柏木陽（演劇家）×片岡祐介（音楽家） （４）倉品淳子（演出家・俳優）×片岡祐介（音楽家） （５）上田假奈代（詩業家） ○ ダンスアウトリーチ （１）楠原竜也（振付家・ダンサー） （２）ISOPP（ヒップホップダンサー） ○ 美術アウトリーチ （１）さとうたけし ② シビックキャラバン（住民創造グループ参照）

成 果	課 題
① アーティストキャラバン ○ 音楽アウトリーチ（クラシック） 15回 参加者数 728名 （１）田村緑（ピアノ）× 田島隆（タンバリン） 大河原町立金ヶ瀬小学校、柴田町立船岡小学校（２回）、角田市立桜小学校、蔵王町立円田小学校、丸森町立小斎小学校 （２）神谷未穂（ヴァイオリン）×中川賢一（ピアノ） 柴田町立柴田小学校、白石市立深谷小学校、角田市立東根小学校、角田市立藤尾小学校、川崎町立前川小学校、川崎町立川崎小学校 （３）田村緑（ピアノ） 大河原町立大河原中学校（３回） 【概 要】それぞれ優れたアーティストによるアウトリーチとして、訪問先からは好評を得た。参加体験型を絡めることも大きな効果となっていると考えている。	経験の豊富なアーティストに依頼しているアーティストキャラバン、それぞれ素晴らしいプログラム内容となった。回数を増やし、内容を充実させながら、更にたくさんの方々に参加体験していただきたいと考えている。

成 果	課 題
○ 演劇等アウトリーチ 11回 参加者数 311名 (1) 岩淵吉能(俳優) 白石寿光園(2回)、白石高校 (2) 柏木陽(演劇家) 柴田町立槻木小学校(3回)、丸森町立大内小学校 (3) 柏木陽(演劇家)×片岡祐介(音楽家) ざおうの杜あおそ館 (4) 倉品淳子(演出家・俳優)×片岡祐介(音楽家) 特別養護老人ホームざおうの杜 (5) 上田假奈代(詩業家) 柴田町地域活動支援センターしらさぎ、石巻遊楽館 【概要】コミュニケーションゲームで気持ちをほぐし、ストレッチで体をほぐし、参加者の創造性を引き出しながら寸劇や簡単なダンスを創る。参加者は皆楽しんで参加しており、いきいきと明るい表情となった。	誰もが創造的になれることを体感していただくため、様々な環境に置かれた幅広い層に有効な事業である。参加者がポジティブにコミュニケーションしていく状況が作り出され、笑顔が溢れ和やかな時間の中で創造性が引き出される。できる限り広い地域、様々な方を対象に展開していきたいと考えている。
○ ダンスアウトリーチ 18回 参加者数 1,074名 (1) 楠原竜也(振付家・ダンサー) 柴田町立船迫小学校(2回)、柴田町立西住小学校、村田町立村田第二小学校、丸森町立大張小学校、丸森町立筆甫小学校、蔵王町立遠刈田小学校 (2) ISOPP(ヒップホップダンサー) 大河原町立大河原南小学校、白石市立白石第二小学校(2回)、白石市立越河小学校、白石市立斎川小学校、角田市立北郷小学校、角田市立西根小学校、角田市立横倉小学校、丸森町立金山小学校、丸森町立丸森小学校、丸森町立丸森中学校 【概要】ダンスが中学校の体育のカリキュラムに加わったことにより、教員の関心度も高い。子どもたちはアーティストたちの動きに魅了され、嬉々としてプログラムに参加していた。	ダンスが学校のカリキュラムにも取り入れられ、毎回大好評を得ている事業。回数を増やしていくことが課題である。
○ 美術アウトリーチ 計3回 参加者数 47名 (1) さとうたけし〜アーツ・イン・エデュケーション〜 大河原町立金ヶ瀬小学校、角田支援学校白石校(2回) 【概要】鉛筆代わりにローラーを片手に、圧倒的なテクニックで短時間に絵を仕上げるさとうたけしが、子どもたちと一緒に創造的な作品を作り上げた。プログラム開始時は緊張で躊躇する子どももいたが、その後は一心に色を塗っていく姿が見られ、実施先の学校からも好評を得た。	美術分野のプログラムは実施数が少なく、ノウハウの蓄積もこれから積み上げていくことになる。地域の子どもたちが創造的な表現に触れられるよう、質を高めつつ、実施数を増やしていきたいと考えている。

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
○アウトリーチは小グループでアットホームな雰囲気、アーティストと近くで触れ合うことができる点がとても良い。演奏や演劇を鑑賞するだけでなく、直接触れ合うことで、児童の心を揺さぶるような濃密な体験ができる。今後も続けてほしい。	○優れたアーティストによる本物体験のほか、息遣いや表情を身近に感じながらアーティストと交流、共演することは深い感動体験となる。継続してたくさんのプログラムを届けていきたい。

5. 各種ワークショップ

事業目的	圏域住民のみなさんを対象に、様々な形で気軽に文化芸術に触れていただく体験型の各種ワークショップを開催し、実施する。
事業名	① 照明・音響入門ワークショップ 2016 ② えずっこひろば ③ 20周年記念事業「野点プロジェクト in せんなん ～繋がりと絆を求めて～」 ④ 小学生のためのエンゲキ体験ワークショップ ⑤ クラシックギター体験ワークショップ ⑥ 高校演劇サマーワークショップ ⑦ えずこせいじんカフェ ⑧ 20周年記念事業「佐藤屋で会いましょう」 ⑨ 「60歳からの楽しいクラブ活動」 ⑩ 20周年記念事業「I S O P P ワールド」 ⑪ 20周年記念事業「えんげき絵本～絵本旅～」 ⑫ 20周年記念事業「えんそくひろば～はじめての電車～」 ⑬ 20周年記念事業「あぶきゅう～おとなのさんぽ～」 ⑭ 20周年記念事業「門限ズ」

成 果	課 題
① 照明・音響入門ワークショップ 2016 1年おきに開催している照明・音響ワークショップ。えずこホールで実際に使用している照明・音響器具を教材に、舞台用語の説明や色彩の法則、音の出し方などが参加者に合わせて分かりやすく解説された。また、実際に舞台に立つ側と操作する側を体験し、テクニカルの理解を深めた。えずこホールを実際に使用している団体からの参加者も多く、すぐに実践に生かされるような、実のある研修会となった。 ●参加者数：平成28年4月13日7名、14日5名 計12名	誰もが参加できる照明・音響入門ワークショップ。劇場を利用する際の基礎知識として大切な情報を提供するワークショップ、今後も隔年開催していく。

成 果	課 題
② えずっこひろば 「えずっこひろば」は毎月 1 回のペースで平日の午前中に開設している、未就学児を対象とした遊びの空間。ホールของโฮวไเอを開放してたくさんのおもちゃを用意し、同世代のお友達や託児ボランティアと思い切り遊んで過ごすことができる場となっている。子育て中の保護者同士の交流やホールの託児サービスの認知度を高める役割も果たす。紙芝居の朗読やパネルシアター、ゲストパフォーマーの登場など、毎回親子で楽しめるイベントも好評で、参加者も増加している。今年は、えずこホール 20 周年記念事業の一環として、出張えずっこひろばも行った。 ●参加者数：12 回開催合計 330 名	「えずっこひろば」は託児ボランティアが主管。乳幼児を持つ親子向けの交流、情報交換の場として素晴らしい取り組みとなっている。継続して開催していく。
③ 20 周年記念事業 「野点プロジェクト in せんなん ～繋がりと絆を求めて～」 日常空間をアート空間に変えると同時に非日常的なコミュニティ空間を出現させ、そこに集う人たちが何気なく生活する街角や日常空間を、野点を通して別の角度から見つめなおしてみるきっかけづくりの場。2007 年 10 周年記念事業の一環として開催してから 10 年という節目の開催となった。6 月より打ち合わせを重ね、仙南圏域の中から角田・岡駅前と丸森・筆甫の 2 カ所の開催場所選定や、一連の活動アーカイブ化も通し、地域とのつながりを再認識する活動となった。	約 4 か月をかけて入念に調査、準備をして取り組んだ事業。地域の人との繋がりを大切にしながら展開。内容の深いコミュニティプログラムとなった。参加者の皆さんの自主的な活動の展開が期待される。
④ 小学生のためのエンゲキ体験ワークショップ「歌って踊ろう！！真夏の大ミュージカル！ヤッホホ～イ！」 *[仙南広域圏の振興発展に資する事業]②再掲 夏休みのワークショップとして、昨年度も好評だったエンゲキワークショップ。今年も演劇家・柏木陽と音楽家・片岡祐介を講師に、5 回コースで開催。歌詞づくりから始まりオリジナルソングを全部 12 曲創作。さらに子どもたちのアイデアを元に自由で独創的なストーリーによるミュージカルでは、みんなで協力し合い背景や建物などの舞台セットも身体で表現した。最終日に平土間ホールで行われた発表会では、ぐると観客が子どもたちを取り囲むステージ空間の中、堂々と元気よく発表した。子どもたちのオリジナルミュージカルの世界に惹きこまれた観客からは、たくさんの拍手が送られた。 ●参加者数：①19 名、②20 名、③20 名、④18 名、⑤17 名 計 94 名 ●発表会観客数：48 名	AZ9 関連企画として子どもたちが気軽に参加できる内容で開催した。子どもたちが様々なワークショップを重ね、自分たちの中から出てきた素材により創造されたミュージカル。子どもたちの可能性が大きく引き出され表現として結実した作品となった。今後も継続開催していきたいと考えている。

成 果	課 題
⑤ クラシックギター体験ワークショップ クラシックギターの魅力を地域住民に知っていただくためのワークショップで、今回で5回目の開催。初心者向けのコースで、小学1年生の参加者から50代まで幅広い年齢層が参加。講師のほかにもえずこギター♪アンサンブルのメンバーが参加者に1音1音丁寧な指導を行い、3回で簡単な曲を1曲合奏できるようになった。今後もギターの魅力と合奏の楽しさを伝えながら、同団体のメンバー増員につながる取り組みとしても期待したい。 ①平成28年7月21日②平成28年7月28日③平成28年8月4日●参加者数：①②③各9名 ●参加者数：①②③各9名 合計27名	幅広い年齢層が参加したワークショップ。このワークショップからフレッシュャーズが立ち上がり、活動が活発化している。今後とも継続展開していきたい。
⑥ 高校演劇サマーワークショップ えずこホールで夏休み恒例となった、高校演劇部対象の短期集中型演劇ワークショップ。3日間にわたり、俳優コース、舞台スタッフコース（照明・音響）の2コースで開催された。俳優コースは演劇家の岩淵吉能を講師に迎えた。シアターゲームで楽しみながら集中力、創造力などの技能や感覚を磨いたあと、グループに分かれシーンづくりを行った。日頃の部活動での悩みなども話し合いながら、実践的な学びの体験となった。舞台スタッフコースには、高校演劇コンクールでスタッフを務める予定の生徒たちが参加。舞台照明・音響のイメージを出し合い、実際に劇場の舞台機材を操作し基礎を体験した。学校の垣根を越え参加者同士の交流ができる場としても、貴重なワークショップとなった。 ①平成28年8月3日～5日●参加者数：①24名、②24名、③23名 計71名	高校演劇部を対象としたスキルアップワークショップ。各コースとも親しみやすく参加しやすいワークショップとして好評であり、継続開催していく。
⑦ えずこせいじんカフェ 「つどう、えずこ」をテーマに、えずこホールを拠点に活動する住民創造グループと協力し開催されたカフェ企画。カフェの運営も出演者自身が行う自立型を取り入れ、オリジナルメニューの開発なども行われた。昭和時代の雰囲気に着物で接客し、ドリンクメニューにユニークな名前を付けるなど、各出演者団体は装飾や接客に工夫をこらした。1月22日に開催されたスペシャルカフェでは、えずこミュージック♪アカデミー5団体より50名が参加し、総勢45名のお客様にご来場いただいた。お客さんからは「続けてほしい」という声も挙がった。 12回開催 参加者合計412名	20周年企画として住民創造グループが取り組んだ企画。各団体それぞれ趣向を凝らし、ミニイベントとして開催した。各団体の意向も踏まえ継続展開を検討していく。

成 果	課 題
⑧ 20周年記念事業「佐藤屋で会いましょう」 大河原町中心部にある旧家佐藤屋の座敷で開催されたイベント。明治から昭和初期に建設された商家の邸宅内で、地元気鋭の画家・書家の作品の展示、えずこ住民創造グループによるギターやチェロ・ヴァイオリンなどのミニコンサート、蔵王のフランス料理店・アトリエデリスの料理提供などが行われた。地域を拠点に活動するさまざまなジャンルのアーティストのコラボレーションで、新しい文化の流れを生み出そうという企画。100年以上の歴史を持つ瀟洒な空間で、作品や地元の食材にこだわった料理などを、約50人の来場者が楽しんだ。 平成28年11月4～6日 参加者合計1,101名	20周年企画として、住民団体佐藤屋プロジェクトと協働して実施した事業。絵、書の作品展示、えずこ住民創造グループの演奏、さとうたけしのライブペインティング、アトリエデリスの料理、それぞれ好評であった。今後もさまざまな形で、地域の団体との協働企画を実施していきたい。
⑨ 「60歳からの楽しいクラブ活動」 60歳以上の方を対象に第2の人生を楽しく過ごすをテーマに始まった「60歳からの楽しいクラブ活動」。演劇家・柏木陽、音楽家・片岡祐介を講師に、寸劇や作曲を行う縁劇部と、詩業家・上田假奈代が講師の文迎部の2コースを開催。毎年楽しみにしている参加者も多く、定期開催が求められている。縁劇部はお茶会を含め5回開催。「わたしたちのハタチ」をテーマに寸劇を作成した。過去の思い出や今までの人生経験、日ごろの疑問をメンバー内でブレインストーミングし、歌詞に反映させた。60歳からのメンバーでしか作れないオリジナル歌詞に曲をつけ、オリジナルソングも作成した。3月5日に開催された「えずこせいじん祝賀祭」ではWSの成果としてパフォーマンスを披露。最後は観客とともに「万病小唄」を歌い会場を大いに盛り上げた。文迎部の活動は昨年度と今年度で2回目を迎える。2人1組で詩を送りあうワークショップを行い、参加者からは「感動した」「いつもと違う部分の脳を使った」など満足そうな笑顔と感想をいただいた。 7回開催 参加者合計48名	熟年世代向けの事業。ゆったりと楽しい時間の中で、アートを媒介に豊かな体験の時間を過ごしていただくのが狙い。取り組むジャンルの幅を少しずつ広げながら楽しい交流の場と時間を提供していきたい。
⑩ 20周年記念事業「ISOPP ワールド」 元ブレイキングダンスの世界チャンピオンであるISOPPによるダンス、ヴォイスパフォーマンス、アートを織り交ぜた地域協働型事業のワークショップ。小学校の夏休みに実施したこともあり、近隣の小学生、親子など多数が参加した。柴田町の放課後児童クラブ、地域のダンスグループと連携して事業を展開することができ、濃い内容となった。 ●平成28年7月26日 参加者数延べ247名	圏域内の複数の関係団体と連携しながら協働して1つの事業を成し遂げた意義は大きい。互いの負担にならないよう持続可能な事業展開を検討していく。

成 果	課 題
⑪ 20 周年記念事業「えんげき絵本～絵本旅～」 演劇と絵本を組み合わせた柏木陽（演劇家）のオリジナルプログラム。絵本の中身を演劇で表現する手法に、子どもたちは目を輝かせながら参加していた。また、七ヶ宿町立関保育所で創作したものを、近隣のグループホームで上演。子どもたちの一生懸命な演技に、お年寄りの方々も温かい拍手を送っていた。世代間交流プログラムに、保育所、老人ホーム双方のスタッフからも高い評価を得るプログラムとなった。 ●実施数 5 回 参加者数延べ 109 名	限られた参加者だけを対象にしているアウトリーチ事業の発展形として、世代交流の要素を織り交ぜた事業を実施。関係団体とのより丁寧な調整を図りつつ、今後も事業を実施していきたい。
⑫ 20 周年記念事業「えんそくひろば～はじめての電車～」 電車に乗る機会の少ない幼児と親が、アーティストと一緒にローカル線の阿武隈急行に乗り、遠足をするという移動型のイベント。電車旅を楽しんだ後、槻木コミュニティプラザで演劇と音楽を組み合わせたワークショップを行った。多くの親子にとって、記憶に残るプログラムとなった。 ●平成 28 年 10 月 6 日実施 参加者数 28 名。	幼児を対象にした企画は多くなく、幼児が親子で一緒になって文化芸術を楽しめる貴重な機会となった。今後もアーティストと意見交換を続け、趣向を凝らした事業を提供していきたい。
⑬ 20 周年記念事業「あぶきゅう～おとなのさんぽ～」 電車の中でワークショップを行うという特別企画。阿武隈急行の全面的サポートにより、貸切車両で柏木陽（演劇家）と片岡祐介（音楽家）が歌・ダンス・演劇を融合したワークショップを展開。電車という日常的に利用する空間で、非日常的な表現活動を行うことにより、参加者の自由な発想を引き出した。 ●平成 28 年 10 月 6 日実施 参加者数 17 名。	20 周年記念事業という特別な位置付けもあり、民間企業である阿武隈急行に多大な協力をいただき、実施することができた。今後も地元企業などと連携した事業展開を図っていきたい。
⑭ 20 周年記念事業「門限ズ」 門限ズは 4 人の異ジャンルのアーティスト（野村誠、倉品淳子、遠田誠、吉野さつき）からなるユニット。10 周年記念事業で関わりの深かった 2 団体でワークショップを行った。子どもたちのアイデアを積極的に取り入れながら様々な試み、音楽表現の新たな可能性を引き出すプログラムを展開。参加した子どもたちも終始溢れる笑顔で参加していた。 ●実施数 4 回、参加者数延べ 110 名	即興性のある自由な表現が次々に生まれる現場は、参加する子どもたちだけでなく、関わるスタッフにとっても刺激のあるプログラムになる。地域の文化拠点施設として、今後も研鑽を積み、深みのある事業を実施していきたい。

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
○えずこせいじんカフェは良い企画だと思う。もっとキャラバンのに行い、市町のイベントに合わせて開催してみてもどうか。	○住民グループ主体のプログラムとして、内容を精査しながら継続展開を検討したい。

6. 20 周年記念事業「えずこせいじん祝賀祭」

事業目的	えずこホールが蓄積してきた地域と住民とアーティストとのつながりを核に、住民の創造性を引き出し、ワークショップ、アウトリーチから引き出された素材やさまざまな地域活動を、映像アーカイブやツアー企画に発展させ、その締めくくりとしてホールで創造的な祝祭の舞台を制作する。
事業名	○20 周年記念事業「えずこせいじん祝賀祭」

成 果	課 題
●開催日：①平成29年3月4日（土）②平成29年3月5日（日） ◎藤浩志&ポリプラネットカンパニーによる装飾 ◎せいじんたちの軌跡 ◎えずこせいじんcafe「アトリエデリス」 ◎ココロがおどる、えずこでおどる、楠原竜也とダンスせいじんたちの舞 ◎e☆G G（えずこ☆ゴスペル）～響け！えずこ☆ゴスペル・ソウルヴォイス ◎A Z 9 ジュニア・アクターズ～歌って踊るソラマメ・アクターズ ◎野点撮影班～短編ドキュメンタリー「野点外伝」 ◎えずこウィンド♪アンサンブル Welcome! 大ホール！ ウィンドせいじん・コンサート ◎えずこシアター わいわい！ おいわい！ えずこシアター!! ◎門限ズ～音楽ときどきダンス、一時演劇ところによりワークショップ ◎ISOPP+GOODmen ～えずこ20周年スペシャルエディション～ ◎えずこせいじんトーク ◎きむらとしろうじんじん&野点チーム/えずこファイヤーキャンプ～火と屋台と語り三昧な1日 ◎えずこ♪男声合唱団～せいじんDANSEI♪カフェ・コン ◎えずこヴァイオリン♪&チェロ♪アカデミー～えずこですくすく成長中！弦楽合奏！～ ◎柏木陽+せいじん3（せいじんさんじょう） ◎心が綴る、想いが繋がる、上田假奈代 詩のワークショップ ◎We♡ギター・we♡えずこ～ギターが繋ぐ地域の架け橋～ ◎えずこコラボレーション。しあわせセレブレーション&グラントフィナーレ。	えずこホール 20 年の集大成として開催。これまで関わっていたいたさまざまな方々に呼び掛け入れ替わりでステージを構成すると同時に、これまで展開してきたアウトリーチの概要が視覚的に見える展示ほか、美術作品による

成 果	課 題
上記事業を2日間10時間以上にわたって展開した。ホストアーティストは藤浩志(美術家)、既成概念に囚われない手法で住民と協働による独創的な手法で事業の組み立て会場装飾を担当。参加アーティストは、演劇、音楽、ダンス、美術ほか各分野から第一線で活躍するアーティストが23人。それに住民創造グループ8団体320人が参加した。たくさんのアーティストとたくさんの住民が出会い、交流、協働することによりさまざまな創造的なシーンが生み出され、他に類を見ない地域創造発信型の大規模な祝祭イベントとなった。 2日間の総参加者数：3,561人	

有識者による意見・評価	意見に対する対応等

7. アートによる被災地支援事業

事業目的	東日本大震災により宮城県内、特に沿岸部の地域が広範囲にわたって甚大な被害を蒙った。本事業は東京都、アーツカウンシル東京と共催し、復旧から復興期へ向けて、アートによる地域の再生を目的とした復興支援事業を各種展開するものである。
事業名	(1) ココロとカラダと人をつなぐ演劇プロジェクト (2) 柏木陽・心のケアハウス (3) 楠原竜也とダンスせいじんの舞

成 果	課 題
①ココロとカラダと人をつなぐ演劇プロジェクト これまでもえずこホール内外で数百回にのぼるワークショップやアウトリーチを行ってきた演劇家の岩淵吉能によるアウトリーチ。1日目は演劇の手法を使ったコミュニケーションゲーム、身体ほぐし、オリジナルダンス創りを行った。音楽(リズム)に合わせ、みんなで踊ることの楽しさを感じてもらえるようなプログラムとなった。2日目は「未来への自分にエールを送る!」というワークを行った。自分の目標、考えていることなどを他者に伝えることに挑戦するとともに、気持ちを伝えることの大事さに気付く機会を促した。 会場：村田町立村田小学校 3回開催 参加者延べ104名	心、声と身体をつなげ、表現力、創造力を引き出す演劇メニューを実施。自分の考え、気持ちを他者に伝えることの重要性に気付くことが目的。心と体をフルに使ったワークに子どもたちは深く集中していた。

成 果	課 題
②柏木陽・心のケアハウス 演劇家の柏木陽が不登校の小中学生の支援拠点を3日間訪問したアウトリーチ。大人数で遊ぶ「だるまさんがころんだ」は、従来の遊び方のものに1つ1つルールを加えていき、演劇の手法にアレンジして楽しむもの。段階的にプログラムを発展させていくことで、子どもたちの表現力を引き出したり、コミュニケーション力を育んだりするプログラム。終了後に、「表現することがたのしい！もっとやってみたい」と子どもたちが思えるようなプログラムを目指した。 会場：おおがわら心のケアハウス 3回開催、参加者延べ76名	ゲーム感覚でコミュニケーション能力を引き出す各種ワークショップを実施。人と触れ合い、一緒に体験する過程で、お互いを思いやる心、自己肯定感、自己有用感を醸成していくことを目的に実施。子どもたちは深く楽しみ、施設からも好評を得た。
③楠原竜也とダンスせいじんの舞 仙南地域に住む小学4年生から中学生3年生までを対象にしたダンスワークショップ。五感を刺激し想像力をかき立てるような講師の楠原のファシリテートに、子どもたちは自由に体を動かし表現した。短い時間ではあったが子どもたちは集中して取り組み、創作したパフォーマンスは3月5日のえずこせいじん祝賀祭で発表した。 会場：えずこホール 3回開催 参加者延べ32名	子どもたちの表現力・想像力・コミュニケーション能力を引き出し、自己肯定感を高めることを目的に実施。学校を超えた交流の場を提供することで子どもたちのさらなる成長にも繋がった。

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
○3つとも子どもたちの心と体を揺り動かすことをテーマにしており、非常に良い事業だと思う。	○子どもたちが創造的な活動に取り組むことは、心と体を開放して活性化し、自己肯定感、コミュニケーション能力の向上に繋がっていくものであり、とても意義のある事業と考えている。

参考：平成28年度に助成、支援、共催等により国・県その他から財政支援を受けた内容

＊文化庁「文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業」 25,500,000 円

＊宮城県「平成28年度文化芸術の力による心の復興支援事業」 2,623,000 円

＊みやぎ県民文化創造の祭典共催事業

（音楽・演劇・ダンスの各アウトリーチ、ワークショップ事業）1,050,000 円